

令和4年度事業報告

公益財団法人ふくおか公衆衛生推進機構

急速な高齢化や生活習慣の変化により、糖尿病、がん、心臓病、脳卒中等に代表される生活習慣病や介護を必要とする人の増加が大きな問題となっています。

このような状況の中、当機構では、新型コロナウイルス感染症の影響で、2020年度は健診受診者数が大きく落ち込みを見せたものの、感染予防対策の万全を期した検査体制を提供することにより、地域住民健康診断においては、21年度、22年度と徐々に新型コロナウイルス感染症流行前の受診者数に戻りつつあります。一方、職域健康診断では、大手工場の閉鎖や、一部の健康保険組合においてそれまでの巡回型健診から施設型健診に切り替えが行われたことから受診者数は減少しました。

健診事業の事務の効率化を図るため、健診のWeb予約、読影画像情報システムの本格導入や健診における検査結果の収集を自動化する健康支援システムの開発を行いました。

普及啓発事業では、「がん征圧の集い」など、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、無観客によるオンライン開催とし、基調講演およびトークショーをライブ配信し、講演等を事前録画し県のホームページから視聴できるようオンデマンド配信いたしました。

また、昨年に引き続き、福岡女子大学においてリレー・フォー・ライフ・ジャパン福岡大会を実施いたしました。

第69回福岡県公衆衛生大会を令和5年2月に開催し、公衆衛生事業功労者18名に対し、理事長表彰を行いました。

令和4年度で57回目となる「がん研究助成金」では、応募19件の中から11件の研究事業に対して、計440万円の助成を実施しました。

環境科学事業では、主要な事業である大気環境測定と水質調査分析の受注数がそれぞれ、前年度対比103.1%、107.8%と増加しました。

そのほか主要な取り組みとして、「ガーデンシティ健診プラザ」への移転準備、赤坂総合健診センターの土地売却、県からの受託事業である新型コロナワクチン接種を実施しました。